

P1······ 目次

P2····· 医療連携の更なる推進を目指して

P4·····・ キャンサーボード開催のご報告

P5····· 認定看護師のご紹介 p6····· 新任医師のご紹介

退職医師のお知らせ

地域医療連携室からのお知らせ

■理 念

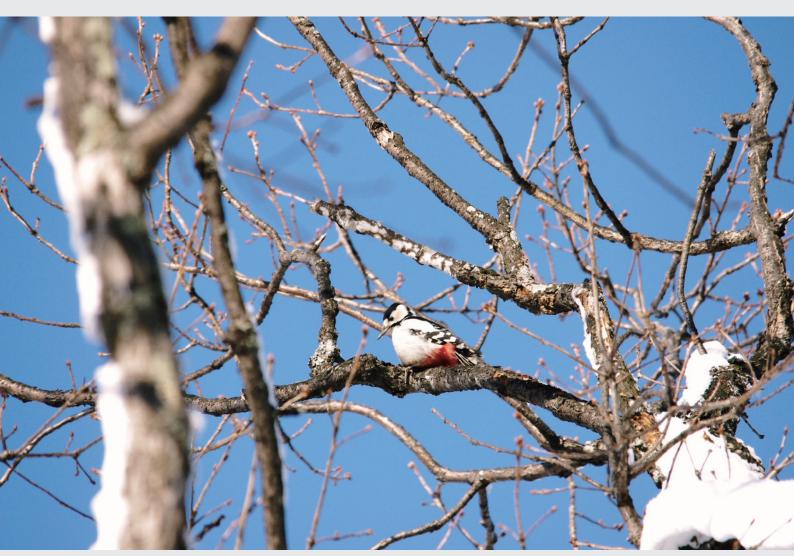
赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、 質の高い医療を提供します

■基本方針

- 1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2. 急性期医療を中心にして診療を進めます
- 3. 救急医療の充実に努めます
- 4. 地域の医療機関等との連携を推進します
- 5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6. 職員の教育、研修を充実させます
- 7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

■私たちは患者さまの権利を尊重します

- 1. 適切な医療を受ける権利
- 2. 医療に関して知る権利
- 3. 医療行為を自分で選ぶ権利
- 4. プライバシーを保証される権利
- 5. 人権を尊重される権利
- 6. セカンドオピニオンを受ける権利



「アカゲラの楽奏」 当院写真部 森谷 撮影



医療連携の更なる推進を目指して

副院長 森 川 秋 月

年が明け、寒の入りとともに、いよいよ寒さも本格的になってまいりました。連携医療機関の皆さまにおかれましてはお元気でお過ごしでしょうか。

さて、日頃紹介、逆紹介を通じて医療連携にご協力をいただいておりますが、昨年11 月からは更に、連携医の皆さまをはじめ旭川市医師会の皆さまに大変なご協力をお願い しております。この試みの内容と背景について説明させていただきたく思います。

1. 紹介患者様優先の診療について

前回10月の連携室だよりにもご紹介いたしましたが、現在神経内科、脳神経外科外来では紹介患者様優先の診察をおこなっています。紹介された患者さんの待ち時間を短縮するのが狙いであり概ね好評のようです。ただ新患外来が独立していないとうまく回りませんのでまだ院内全体に広げるには至っておりません。

2. 紹介状を持たない新患患者様に対する対応

医師会を通じて各医療機関にお願いしたのがこの対応です。

図1に示すように、患者さんの同意およびかかりつけ医療機関の同意を得られた場合に、当院地域医療連携室から連絡させていただき、診療内容を紹介状として送付いただいて、紹介患者として診療対応する、というものです。現在、日に数名が該当し、かかりつけ医の皆さまの多大な協力を得て、何とか運用が進んでおります。

このような試みを行う背景は、言うまでもなく国の進める「医療の役割分担と資源の有効活用」であります。現在高齢化の急速な進行とともに多くの患者は何らかの慢性疾患を有し、治療を受けています。すなわち「病気の者が違う病気を発症する」ケースが圧倒的に多くなっており、「基礎疾患の病態と治療内容の把握」が正しい治療を行うために必須な情報となっています。ですから一見関係のない病態で当院を初診された方でも、良く説明すれば理解していただきご協力をいただけるケースが増えています。

現在当院は「地域医療支援病院」の承認を得て診療をおこなっていますが、その要件として紹介率、逆紹介率が所定の基準を満たすことが必要です。来年度からの基準では

①紹介率から救急患者を除くこと、②新しい計算式で紹介率を(おそらく)65%以上とすること、が必須とされるようです。現在2013年上半期の当院の(新計算式での)紹介率は60.6%、逆紹介率は57.6%です。更に紹介・逆紹介を加速させなければなりません。

私はご存じのように 糖尿病専門医です。デ ンマークのステノメモ リアルホスピタルは ヨーロッパの糖尿病セ ンター病院で年間延べ 25.000人の外来患者を 診察していますが(当院 糖尿病外来とほぼ同数)、 1人当たりの受診は通 常年間1~2回です。 残りは全てかかりつけ 医が日常診療を継続し ており、センターの役割 は治療方針の決定、合併 症の評価および患者教 育です。一足飛びにそ うはならないでしょう が、日本でも否応なく general-specialの分離 が進むと思われます。 皆さまのご意見やお叱 りも頂戴しながら、前に 進んでゆきたいと考え ております。

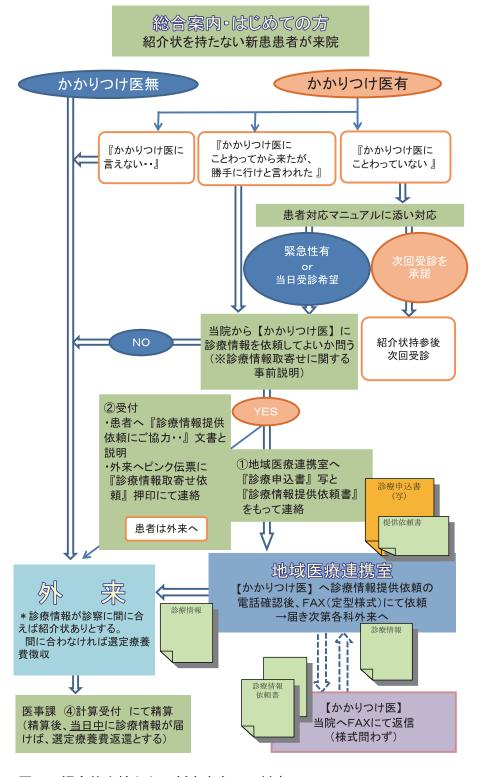


図 1 紹介状を持たない新患患者への対応フロー

キャンサーボード開催のご報告

キャンサーボードは癌症例に関する症例検討会で、院内の多職種のメンバーが集まり、提示された症例の診断・治療・予後・経過観察方針などのさまざまな問題につき意見交換をする検討会です。2013年4月から認定されたがん診療連携指定病院の認定要件でもあり、今年度は年3回の開催を目標として企画を立て始めました。

第1回目は2013年7月30日に、96名が参加して開催されました。提示された症例の一つは、外科の佐々木剛志先生から出された大腸癌肝転移の症例で、転移性肝腫瘍の診断とその外科的切除術の適応などに関しての議論が中心となりました。もう一つの症例は、消化器内科の林秀美先生の発表で、肝表面に発生した肝細胞癌に対し腹腔鏡下ラジオ波焼灼を施行した症例でした。腹腔鏡で肝臓を観察しながら治療している映像がプレゼンテーションされて、興味深い症例でした。

第2回目のキャンサーボードは、2013年10月16日に、51名の参加で開催されました。血液・腫瘍内科の酒井俊郎先生から、造血幹細胞移植に関する基礎的な事項に関するご説明をいただき、実際の症例のご紹介をいただきました。専門性の高い分野のお話であり、参加者にとって大変有意義であったと思われます。また、消化器内科の河端秀賢先生から、同時性三重複癌の症例の呈示がありました。胃癌・食道癌・大腸癌の三つの消化器臓器で同時に発見されたもので、それぞれの癌に対しての治療方針・全身管理の状態・重複癌発生要因などについて議論されました。

日頃、各診療科において、それぞれの分野の癌に対する診断・治療を行っており、専門外の分野に関する話を伺う機会はこれまでほとんどありませんでした。キャンサーボードを開催することにより、さまざまな分野の症例に関して議論することが可能になり、大変有意義であったと思います。また、院内の多くのパラメディカルスタッフにとっても、当院で行われている癌治療の状況の一端に触れるという意味で、いいチャンスになったのではないかと思います。まだまだ限定した症例しか呈示出来てはいませんが。今後もこのような発表会を継続して、当院の癌診療レベルの向上に努めていきたいものです。









旭川赤十字病院 認定看護師のご紹介

がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法看護認定看護師は、2013年11月現在、全国に1,168名おり、北海道に85名、旭川市内に8名が登録されています。

がん化学療法看護認定看護師の主な役割は、①がん化学療法を受ける患者様とそれを支えるご家族が安心かつ安全に治療が受けられ、がんと共存しながら自分らしい生活を送ることができるように専門性の高い看護実践を行うこと、②毒性の強いがん化学療法薬を取り扱う際に、看護師自身への曝露予防や薬物に関する専門的な知識・技術を提供することです。

当院には2名の認定看護師がおり、外来化学療法で通院治療を受ける患者、消化器内科・外科・ 小児科混合病棟で入院治療を受ける患者を担当しています。

当院でのがん化学療法看護認定看護師の具体的な活動内容をお示しします。

- ② がん化学療法看護の職員教育 新規がん化学療法薬の投薬管理や副作用症状のマネジメント 安全ながん化学療法薬の静脈内投与について集合教育 埋め込み型中心静脈ポートの管理
- ③ 投薬管理や曝露防止対策の見直し、院内マニュアル改訂
- ④ 医療スタッフの相談及び指導 依頼に応じた、がん化学療法看護領域の研修会 副作用症状の緩和およびセルフケア支援 精神的支援など

⑤ 院外活動

北海道看護協会主催「抗がん剤の曝露予防対策」講師や地域医療関係者を対象とした講習会等を行っています。日本看護倫理学会や日本医療マネジメント学会北海道支部学会で、がん化学療法認定看護師としての活動を研究報告しています。また、市内・近郊のがん化学療法看護認定看護師と共同し、地域におけるがん化学療法看護の向上に努めていきたいと考えています。

皆様の施設で、がん化学療法看護に関するご相談や院内研修会の講師派遣等のご希望がございましたら、地域医療連携室を通じてご連絡下さい。

氏名(資格取得年)	分 野	コンサルテーション可能な項目
谷本 知華子 (2009年取得)	がん化学療法看護	 ①中心静脈ポートの取り扱い・構造と管理・トラブルの早期発見・穿刺と抜針の実技指導 ②抗がん薬の曝露予防策 ③がん化学療法薬(抗がん薬)の有害事象と緩和技術 ④分子標的治療薬患者の皮膚障害とスキンケア ⑤がん化学療法患者の食事
米山 香世 (2012年取得)		

新任医師のご紹介



- ②取得指導医・専門医
- ③卒業年度
- ④地域医療機関の先生方へ一言!



スズキ ヨウスケ **鈴木 洋祐**



- ①呼吸器内科
- ②日本内科学会·認定内科医
- ③平成21年度
- ④どの地域においても医療従事 者は不足していると思います。 お互いに助け合いながら頑張 りましょう。

タケヒロ **健広** ザガガ **嵯峨**



①脳神経外科

- ③平成22年度
- ④はじめまして。平成25年10月より旭川赤十 字病院脳神経外科でお世話になっておりま す。旭川医科大学を卒業し、現在卒後4年目 です。赴任して数ヶ月が経ちますが、日々、 非常に多くのことを学ばせて頂いておりま す。まだまだ未熟なところが多く、ご迷惑を おかけすることもあるかもしれませんが、こ れから血管障害や外傷を始めとした急性期 疾患、手術等様々なことを学び経験しながら 成長していきたいと思っています。今後共 ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

退職医師のお知らせ

氏名	診療科	
小玉 賢太郎	呼吸器内科	平成25年9月30日付
富永 三千代	消化器内科	平成25年9月30日付



ご紹介頂いた患者様を優先して診療いたします!

当院では、平成25年9月より、神経内科・脳神経外科の診療につきまして地域医療連携室経由 (医療機関からの診療予約) の紹介患者様優先の新患診療を開始しております。

診察室へお呼びする順番は以下のとおりとなります。

≪診察室にお呼びする順番≫

- ①かかりつけ医から、診療の予約をされた患者様⇒ 予約時間の前後でお呼びします。
- ②かかりつけ医からの紹介状をご持参の患者様⇒ 来院順にお呼びいたします。
- ③紹介状のない患者様⇒ ①②の診療が終了後、来院順にお呼びいたします。
 - ※救急患者様につきましては、従来通りの対応といたします。
 - ※医療機関からのご予約(全診療科)につきましては、地域医療連携室にて行っております。

発行/旭川赤十字病院 地域医療連携室 〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

TEL:0166-22-8111(代表) TEL:0166-27-8585(地域医療連携室直通)

FAX:0166-22-8287

E-mail:renkei@asahikawa.jrc.or.jp